

◇ 31年度 指定管理者事業評価書

施設名	水生植物公園みずの森		指定管理料	利用料金	支出	経理の状況	施設運営の方針
施設所管課	建設部 公園緑地課	初年度	175,490,000円	12,812,800円	188,237,222円	利用料金の実績は計画より少なかったが全体としてバランスのとれた収支であった。	都市公園であるみずの森の豊かな自然と調和を図り、子どもから大人まで利用できる公園としての運営
施設HPアドレス	http://www.seibu-la.co.jp/mizunomori/	2年目					
指定管理者名	近江鉄道ゆうグループ	3年目					
指定期間	平成31年4月1日 ~ 令和6年3月31日	4年目					
評価対象期間	平成31年4月1日 ~ 令和2年3月31日	5年目					

●総合評価の基準		
5	☆☆☆☆☆	評価基準のすべてが☆☆☆以上で、かつ、最も多い評価が☆☆☆☆☆である
4	☆☆☆☆	評価基準のすべてが☆☆☆以上で、かつ、最も多い評価が☆☆☆☆である
3	☆☆☆	評価基準の最も多い評価が☆☆☆である
2	☆☆	評価基準の最も多い評価が☆☆である
1	☆	評価基準に☆が1以上ある

○その他の項目	
公募・非公募の別	公募
使用料・利用料金制の別	利用料金制
指定管理者による運営開始日	平成25年4月1日
施設の供用開始日	平成8年7月13日
指定管理導入前の運営形態	市直営

◆総括評価を概括した総合評価の所見(成果・改善等)

●指定管理者の総合自己評価…	●市(施設所管課)の総合評価…
年度の管理・運営に係る事業目標(年度当初に記入) ・琵琶湖の群生ハスによる集客が全く見込めなくなった現在、園内に新たな魅力を増やすと共に、水辺の植物が楽しめる公園として再整備を引き続き進める。特に、団体利用を促進させるためのオリジナルプランの開発や、広報・営業活動をさらに進め、31年度の年間入園者数8.1万人、令和5年度8.5万人を目標とする。・日本有数の水生植物をテーマにした植物園として、ハス・スイレンの魅力国内外に発信し、つなげていく「水辺のボタニカル・ミュージアム」を目指す。そのため、従業員の維持管理技術や知識・経験など資質向上にも努め、貴重な植物を適切に生育・繁殖させ、開花・結実事例や品種数を増やすほか、管理育成手法などを適正に記録し、伝えていく。	事業目標および管理・運営に対する評価(事業年度終了後記入) ハス群生地が平成28年に消滅して以来、みずの森の夏の入園者数に大きなダメージを受けていたことから、新たにハスプロジェクトを立ち上げ園地内池に地域と連携して観賞場所を作り上げるなどされ、また園内を写真スポットとなるように展示装飾され魅力向上に努められた結果、今年度は新型コロナウイルスの影響を受けたが、ほぼ目標入園者数に達したものと評価する。 植物管理については、有料植物園の植物として季節の移ろいが楽しめる工夫や個々に観賞いただけるようにきめ細やかな管理が必要であり、刻々と変化する気象や植物の状態を把握し適切な管理や情報発信がなされることを望む。また、引き続き写真スポットを意識した演出はもとより、新しい植物の展示紹介のための植物導入や展示準備をされたい。
事業目標および管理・運営に対する自己評価(事業年度終了後記入) ・当該年度においては、植物園としての魅力向上のため、特にコミュニティ広場を中心に花修景の整備(フラワーボール、ハンギングバスケット、鉢物展示など)の充実を行った。また、各種花壇や装飾展示(菊展示・干支展示など)についてもレベルアップを行ったところ、園内で記念写真を撮影する姿やインターネット上のSNSで高評価と共に紹介されるケースが増えてきた状況となった。併せて、イベント・企画展についても恒例のものを継続開催しつつも、人気のあるイベントの回数の増加や新規イベントへの更新などを進めた。残念ながら、年度末には新型コロナウイルス感染症拡大の影響により各種イベントの中止や市民の外出控えがあったため、年間来園者数は目標値(82,000人)をわずかに下回る80,817人となったが、様々な取り組みの結果、琵琶湖ハス群生地消滅以降低迷していた状況からは大幅に回復できたと考えている。その他、樹木管理や施設設備管理などについても継続的に実施してきたが、安定した運営と植物園としての品質の維持・向上のため引き続き効果的に取り組んでいくことが必要であると考える。	公募・非公募、使用料・利用料金制の導入についての効果の検証 (応募状況:公募) 施設管理に関して、高い管理技術と経済的運営を行う管理者を求めため公募による選定とした。 (利用料金制度:導入) 今期から、利用料金制を導入したことに伴い、中学生以下の入園料を無料、65歳以上の大人の入園料を半額にしたことにより、入園者への利便性向上、入園者増につながった。(入園料収入は昨年度と同じ程度となっている) 昨年度から引き続き様々な多くのイベント・展示会が実施されている。また、植物園でのイベントになるように考慮し、新たなニーズにも迅速に対応した運営を進められたい。

◇施設に係る主な指定管理業務	

◆評価基準	
☆☆☆☆☆	仕様書・協定書等の基準を遵守し、その水準よりもはるかに優れた内容である
☆☆☆☆	仕様書・協定書等の基準を遵守し、その水準よりも優れた内容である
☆☆☆	仕様書・協定書等の基準を遵守し、概ねその水準に沿った内容である
☆☆	仕様書・協定書等の基準は遵守し、若干の改善が必要な内容である
☆	仕様書・協定書等の基準を遵守しておらず、改善が必要な内容である

植物園としての植物等の管理・展示に関する業務(仕様書その1p4~12、17、その2P4~61)				
評価項目1	指定管理者の自己評価		市(施設所管課)の評価	
	上半期評価	コミュニティ広場を中心に季節の花鉢、木箱、ハンギングバスケットなどのボリュームをアップし、開花リレーを展開できた。樹木については、定期的な薬剤散布の他、夏期灌水(ホース灌水、スプリンクラー等)、枯損枝処理等を実施した。また、より植物に親しんでいただくために、開花状況等を知らせる表示マークを適宜樹名板に取り付けた。	上半期評価	コミュニティ広場の展示は、近年と比べるとハンギングバスケットやコンテナの装飾展示物が多くみずの森ならではの展示がされており、多くの方が写真を撮影されている様子が見受けられたことから良い展示がなされていると評価できる。なお、樹木管理をはじめ基礎的なかん水管理や病害虫防除等の植物管理については、植物園の管理として不十分な事例もあり、管理技術の底上げが課題である。
	☆☆☆		☆☆☆	
	下半期評価	上半期に引き続き、コミュニティ広場を中心に季節の花鉢、木箱、ハンギングバスケットなどのボリュームをアップし、開花リレーを展開できた。これらの花修景をバックに記念写真を撮影する姿が多く見られた。また、樹木については、定期的な薬剤散布の他、冬季に土壤改良、パーク敷設、下草除去等を進め、環境整備を強行的に行った。	下半期評価	上半期に続き、コミュニティ広場の展示はボリューム的にも充実しており、また、季節の展示であるキクの展示や干支とポインセチアも来園者の満足度は高く評価できる。なお、概ね来園者に好評であるが、ハンギングバスケットや展示装飾において、展示時期に未完成の物や観賞時期が過ぎたものがあることから、技術の底上げが課題である。
☆☆☆☆		☆☆☆		

利用者満足度を高め、入園者数を確保する業務(募集要項P11~12、仕様書その1p7~8、23)				
評価項目2	指定管理者の自己評価		市(施設所管課)の評価	
	上半期評価	4月以外は毎月前年度を上回る来園者があり、上半期合計は54,559名(年度目標82,000名の66.5%)であった。一方入園料については、シルバー割引料金の拡大、中学歳以下無料化に伴い、昨年度比の98.4%と減少した。チラシ、HPなどでの告知のほか、メディア取材等を積極的に受け、認知度アップ、各種情報の広報を行った。	上半期評価	4月は、前年度に比べて2割程度の入園者減および減収となっているが、コミュニティ広場の展示をはじめ園内の装飾も充実しており、チラシ、HPなどでの告知の他、メディア取材等も行っていただいた結果、ロコミとの相乗効果も表れ、5月以降は前年度を上回る結果となったことは良い評価が出来る。
	☆☆☆		☆☆☆	
	下半期評価	下半期も植栽整備の充実、各種イベント・企画展の実施、事前広報の充実を行った結果、来園者の増加し、年間合計80,817名となった。新型コロナウイルス感染症拡大により2月下旬以降の来園者が激減したため年度目標82,000名には達しなかったが、ここ数年の来園者低迷の状況からは大きく回復したと思われる。	下半期評価	下半期も、上半期に引き続き、展示や装飾の充実、各種イベントの実施、事前広報の充実の結果、入園者数の確保に繋がったが、新型コロナウイルス感染症拡大により、2月下旬以降のイベントを中止したこと等が影響し、年度目標の82,000名に達しなかったが、通常通り営業されておれば、年間の目標の入園者数を、ほぼ達していたと判断する。
☆☆☆☆		☆☆☆		

快適な環境を提供するための施設の維持管理業務(仕様書その1p12~15、その3p1~94)				
評価項目3	指定管理者の自己評価		市(施設所管課)の評価	
	上半期評価	設備の保守点検を行い、必要に応じ修繕・補修を行った。また、トイレ等を中心に清掃はこまめに行い、快適空間の維持に努めた。台風など自然災害や園内の怪我・事故についても未然防止・発生後の処置等適切に行った。風車撤去工事に伴い、バックヤード周辺の整理整頓が未 completionのため、下半期において整備を進めるものとする。	上半期評価	施設の清掃をはじめ設備の維持管理作業を適正に実施された結果、施設は常に美しく快適に利用いただける状態であり評価できる。なお、植物管理に必要な機材の管理が不十分な面もあり、資機材の適正な維持管理が課題である。
	☆☆☆		☆☆☆	
	下半期評価	設備の保守点検を行い、必要に応じ修繕・補修を行った。また、トイレ等を中心に清掃をこまめに行い、快適空間の維持に努めた。ポイラー、電気系統等施設運営の根幹をなす設備の老朽化が見られたため、専門業者による修繕を行い、施設・設備の長寿命化を進めた。また、バックヤード周辺整備として、土置き場改修工事や配電設備改修工事	下半期評価	施設の清掃をはじめ設備の維持管理作業を適正に実施された結果、施設は常に美しく快適に利用いただける状態であり評価できる。また、老朽化している施設設備を支障な無いう修繕が実施されていたり、新型コロナウイルス感染症拡大防止の対策としての消毒等の対応も確実に実施されたことも評価できる。
☆☆☆☆		☆☆☆		

ノウハウを活かし、ニーズに合った自主事業の実施(提案書III-8(6)p65~69、仕様書その1p16、18)				
評価項目4	指定管理者の自己評価		市(施設所管課)の評価	
	上半期評価	利用者の利便性向上のため、レストラン・売店コーナー・自動販売機等の適切な維持・運営を行った。イベント・企画展についても既存の内容の他、各種団体と連携しながら新規企画にも取り組んだ。また、イベントや季節に応じて、花苗販売も行った。	上半期評価	植物園ならではの植物に関するクイズラリーやイベント、展示会が実施されており、自主事業であるレストラン・売店の運営も適正に実施されていることは、植物園の魅力向上に繋がっており評価できる。
	☆☆☆		☆☆☆	
	下半期評価	イベント・企画展についても既存の内容の他、各種団体と連携しながら新規企画にも取り組んだ。また、イベントや季節に応じて、花苗販売も行った。利用者の利便性向上のため、レストラン・売店コーナー・自動販売機等の適切な維持・運営を行った。これらの取り組みにより、下半期における来園者の回復が見られた。	下半期評価	植物園らしいイベントが盛りだくさんに計画され実施されている。また、ニーズに沿った花苗販売として「多肉植物」の販売がされ、各種団体との連携も相まって満足度上げており、評価できる。
☆☆☆☆		☆☆☆		